

## 1. 図形区分コードと名称

図形区分の名称を設定ファイルで指定できるようにしました。特記仕様のコードが追加できます。以下、操作説明書からの抜粋です。

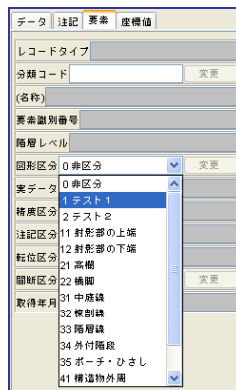
図形区分コードの名称はインストールフォルダの **DMFigureKind.csv** で設定しています。名称を追加・変更される場合、インストールフォルダの下にフォルダ「def」を作成し、そこにこのファイルのコピーを置いて編集してください。このファイルで設定されたコードと名称が[要素]パネルに表示され、選択された要素の図形区分を追加したコードへ変更できます。GeoCoach3D 起動時には次の優先順序でファイルをリードします。

- (1) C:\Program Files\GeoCoachSystems\GeoCoach3D\def\DMFigureKind.csv
- (2) C:\Program Files\GeoCoachSystems\GeoCoach3D\DMFigureKind.csv

この CSV ファイルの内容は、一行目がヘッダで、2行目からがデータです。空白行は読み飛ばします。

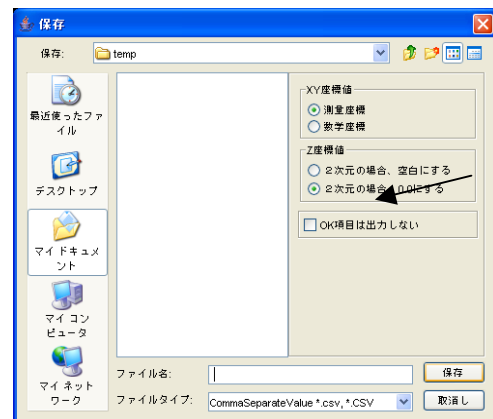
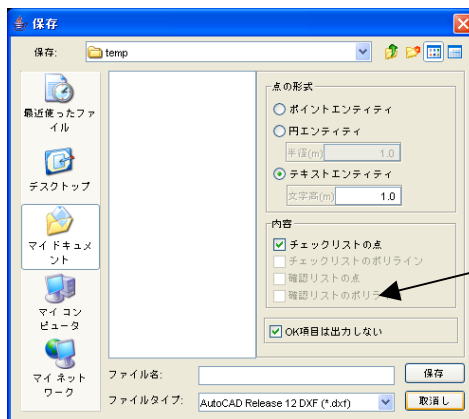
列	型	内容
1	整数	図形区分コードで2桁の整数
2	文字列	名称

	A	B
1	コード	名称
2	0	非区分
3	1	テスト1
4	2	テスト2
5	11	射影部の上端
6	12	射影部の下端
7	21	高欄
8	22	橋脚
9	31	中庭線
10	32	棟割線
11	33	階層線
12	34	外付階段
13	35	ポーチ・ひさし
14	41	構造物外周
15	42	橋脚
16	99	表現補助データ



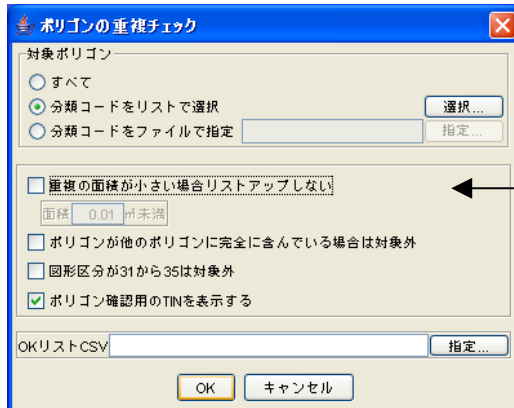
## 2. チェックリスト保存

[ファイル]-[チェックリスト保存]で、DXF と CSV について、オプション【OK 項目は出力しない】を追加しました。ON の場合、[チェックリスト1]での OK 項目を保存の対象外とします。

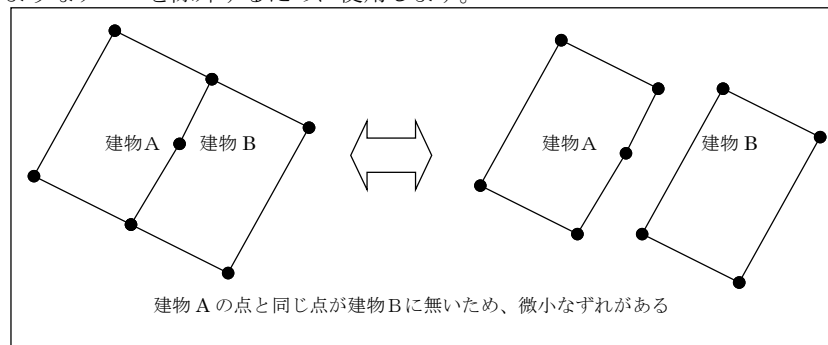


### 3. ポリゴンの重複チェック

[チェック]-[ポリゴンの重複チェック]に重複の面積が小さい場合、リストアップしない機能を追加しました。



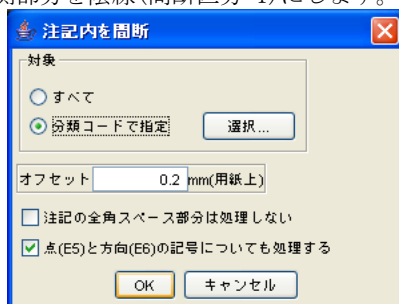
**【重複の面積が小さい場合リストアップしない】** 重複している部分の面積が指定された値より小さい場合、リストアップしません。隣接する建物の線がピッタリ一致していない場合、微小な重複を検出することがあります。このようなケースを除外するために使用します。



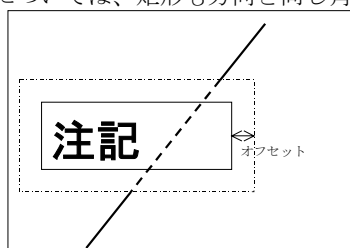
### 4. 注記内を間断

[一括処理]-[注記内を間断]に全角スペース部分を間断しないオプションを追加しました。以下、操作説明書からの抜粋です。

注記の内側部分を陰線(間断区分=1)にします。



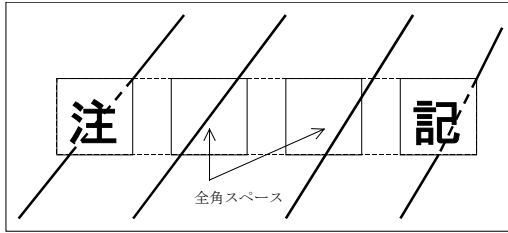
字大、字隔などから計算した矩形について、指定されたオフセットだけ拡げた矩形で線・面要素を分割し、内部に間断区分=1を設定します。「点(E5)と方向(E6)の記号についても処理する」がONの場合、記号を囲む矩形についても間断します。方向については、矩形も方向と同じ角度になります。



面(E1)が分割された場合、レコードタイプを線(E2)にします。

### 【注記の全角スペース部分は処理しない】

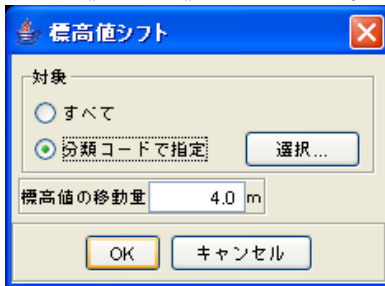
注記の文字列内で全角スペースの部分は間断しません。オフセットについては、全角スペース以外の分割された文字列それぞれについて扱います。



## 5. 標高値シフト

[一括処理]-[標高値シフト]について、主曲線の間隔の倍数でなく、任意の値で上下できるようにしました。また、シフトする要素を分類コードで指定できるようにしました。以下、操作説明書からの抜粋です。

3次元の要素のZ値と一定値上下させます。対象はZ値が-999.0より高い3次元の要素です。TINは対象外です。



【標高値の移動量】Z値を上下させる移動量を指定します。

等高線については、標高値の移動量が主曲線の間隔の倍数の場合、変更された標高値に従って計曲線と主曲線の分類コードを再設定します。元が凹地の場合、凹地の分類コードを設定します。

(2006) test.dm 標高値シフト 分類コード：7102(等高線(主曲線)) [3次元要素]	(-50025.33,-16467.13,122.00)
(2007) test.dm 標高値シフト 分類コード：7102(等高線(主曲線)) [3次元要素]	(-50057.79,-16427.75,122.00)
(2008) test.dm 標高値シフト 分類コード：7102(等高線(主曲線)) [3次元要素]	(-50063.91,-16438.61,122.00)
(2009) test.dm 標高値シフト 分類コード：7101(等高線(計曲線)) [3次元要素]	(-50051.15,-16475.68,120.00) 分類コード変更 7102 ⇒ 7101
(2010) test.dm 標高値シフト 分類コード：7101(等高線(計曲線)) [3次元要素]	(-50111.19,-16428.08,120.00) 分類コード変更 7102 ⇒ 7101
(2011) test.dm 標高値シフト 分類コード：7101(等高線(計曲線)) [3次元要素]	(-50059.18,-16413.88,119.88)

分類コード 8173(基準点、図化機測定標高点、等高線数値)の注記については、数値の文字列も変更します。

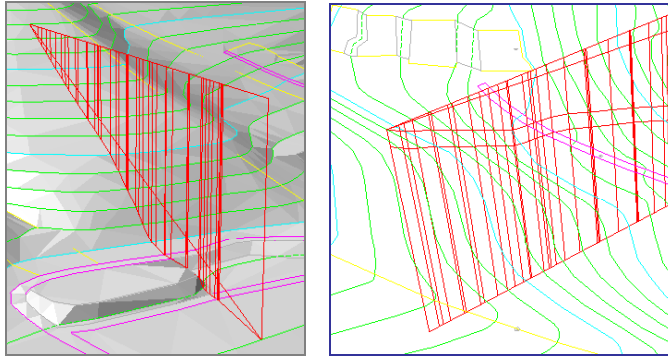
(3977) test.dm 標高値シフト 分類コード：8173(基準点等、図化機測定標高点、等高線数値) [3次元要素]	(-50038.79,-16242.24) 注記変更 180 ⇒ 184
(3978) test.dm 標高値シフト 分類コード：8173(基準点等、図化機測定標高点、等高線数値) [3次元要素]	(-50133.23,-16804.23) 注記変更 170 ⇒ 174
(3979) test.dm 標高値シフト 分類コード：8173(基準点等、図化機測定標高点、等高線数値) [3次元要素]	(-50318.00,-16626.72) 注記変更 130 ⇒ 134
(3980) test.dm 標高値シフト 分類コード：8173(基準点等、図化機測定標高点、等高線数値) [3次元要素]	(-50947.35,-17870.34) 注記変更 172.6 ⇒ 176.6
(3981) test.dm 標高値シフト 分類コード：8173(基準点等、図化機測定標高点、等高線数値) [3次元要素]	(-50953.33,-17982.82) 注記変更 177.5 ⇒ 181.5
(3982) test.dm 標高値シフト 分類コード：8173(基準点等、図化機測定標高点、等高線数値) [3次元要素]	(-50841.91,-17973.47) 注記変更 193.4 ⇒ 197.4
(3983) test.dm 標高値シフト 分類コード：8173(基準点等、図化機測定標高点、等高線数値) [3次元要素]	(-50882.34,-17982.78) 注記変更 184.2 ⇒ 188.2

## 6. 断面表示

断面表示で複数の TIN データについて、複数の断面線を表示するようにしました。

TIN 作成後あるいは TIN ファイルを開いた後、マーク点(コントロールキーを押しながらマウス左ボタンクリックで指定)と、右ボタンクリックで指定したピック点との間の断面を赤く表示します。マーク点とピック点間の線と TIN の三角形の

辺との交点位置を、赤い縦線で表示します。ステータスバーに2点間の水平距離や標高差、傾斜角を表示します。経年変化の前後など複数のTINファイルがある場合、それぞれのTINデータについて断面を取得し、複数の断面線を表示します。



また、[断面]パネルに断面を表示します。表示については、矩形を指定した拡大、2倍拡大、2分の1縮小およびスクロールができます。[断面]パネルにも複数の断面線を表示します。

